



GREEN×EXPO 2027応援企画



©Expo 2027

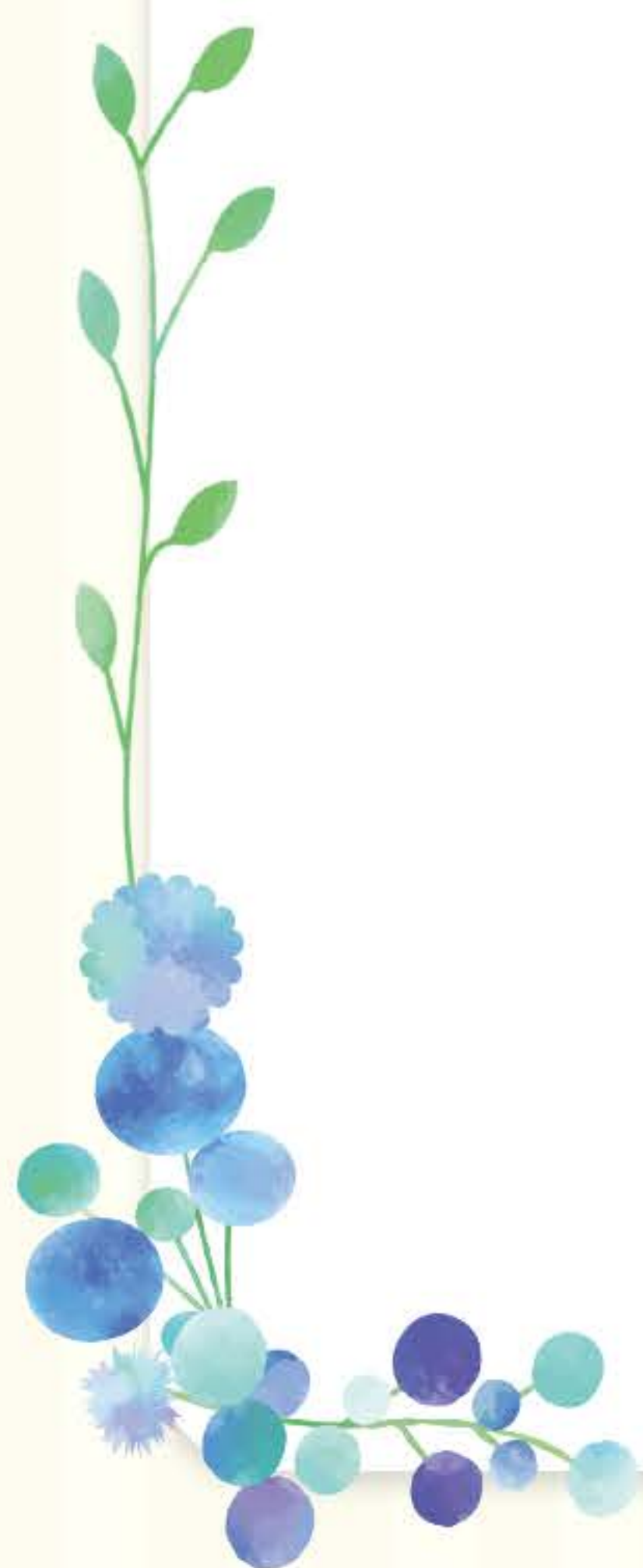


今日から使える 花知識

Flower knowledge

第1回

長持ちさせる切り花の扱い方



私たちの暮らしに彩りを与えてくれる花。そんな花をもっと楽しむために、役立つ豆知識をお届けする連載企画。第1回は長持ちさせる切り花の扱い方を紹介します。

切り花の扱い方の 3 ステップ



飾る前に、余分な葉をとる



花束を持ち帰ったら、包装紙を取り、流水で茎をよく洗います。花瓶の水が汚れることを防ぐため、水につかる余分な葉を手やハサミで除去。葉の量を調節することで、花を花瓶に入れた際に蒸れず、風通しをよくする効果もあります。



茎は水の中でななめに切る



バラなど茎が硬い花は、茎を水の中でななめにカット。水中で切ることで、水を吸い上げやすくなります。茎をななめに切ることで、水を吸う面積が広がる効果も。ヒマワリなど茎が柔らかい花は、水平に切ります。





花瓶の水は継ぎ足さずに交換



バラは花瓶のおよそ半分まで水を入れる「深水」で飾ります。水の量は花の種類によって変わり、ヒマワリやガーベラでは少量の「浅水」に変更。花瓶の水は継ぎ足さずに捨てます。水の交換は毎日すること。

ワンポイント

花 知 識

日持ち品質を認める証、
リレーフレッシュネス認証

別名は「花き日持ち品質管理認証」。切り花を取り扱う個人・団体のうち、MPSジャパン株式会社に申請し、品質管理における審査をクリアした場合に与えられる認証です。生産、流通、小売部門ごとに、マークの色が定められています。



プラスアルファの裏技



花を長持ちさせる、切り花長持ち剤の使い方

切り花を長持ちさせるには、切り花長持ち剤が効果的。商品の説明に従って、正しく水で希釈して使用しましょう。ペットボトルに用意し、冷蔵庫で保管しておく、水を交換する際にすぐに使用でき、便利です。（※誤飲にご注意ください）

監修・撮影協力：株式会社日比谷花壇

GREEN × EXPO 2027

～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで、国際園芸博覧会が神奈川県横浜市で開催されます。日本での最上位（A1）クラスの開催は、1990年に大阪府で開かれた「国際花と緑の博覧会」以来、37年ぶりとなります。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、さまざまな展示や体験を通じて、地球環境の明日を考えるきっかけをもたらします。農林水産省は「日本の自然観を再考し、未来へ進む」というコンセプトのもと、政府出展を実施します。



©Expo 2027



会場イメージCG（メインガーデン）